祕かに歸任した 白仁長官語る

事件は豫想より早く襲來した 要求通りに直ちに決行出來ぬ

今後の方針と豫防

八日夜祕かに歸任、製鐵所側にては極力祕密に附し居たる白仁長官は九日午後三時飄然其姿を長官室に現し中川次長以下の幹部を招集して凝議約一時間に及びし後記者を招じて語る

製鐵所職員も辛ひに六日業議院を通過したが貴族院に廻るには十日ばかりも時日があるのみならず其後の審議も除り呑氣にして居られないので餘らない筈であつたが遂に廻つた、今回の事件は最初豫想した通りの結果になつた、加ふるに其傳播は最初思つて居つたより早く實現されたと思ふ、今後の方針として罷工職工に對する處置は製鐵所側としては是れ以上の追窮やらないで其眞相の調査及憲兵隊の警戒に關しては今後に於ても所謂恒久的不穩の形勢必ず行されずと信ぜられないので今一般的に平靜に歸するを待つより外あるまい、職工の要求に對しては固より彼等が滿足したものとは思はないが併し他工場との均衡上決して其勞銀等安くはないと信ずるのである、住宅問題等に至りては之を彼等の要求通り建設するに至らば百萬圓以上も要するので現今の豫算では迚も實現し得ない、又時間問題に就ても他工場との關係にて製鐵所のみで決行する譯には行かぬ、併し今後斯の如き罷工騷ぎ再發に對する豫防としては速めて上下の意志疏通を圖りたいと思ふのみで未だ具體的方策は考へて居ない云々又最後に同長官は附言して今度の事件に對し製鐵所は決して職工に對する態度を改めないと語つた

平爐の破損程度と

製作品の損害

不良職夫人夫に入場阻止

罷工盛ぎの際勞友會(製鐵會長西田健太郎其他)巧に先驅となりて構内に入り込み職工を煽動して事態を重大ならしめたる形跡あるに鑒み製鐵所にては九日朝職工以外職夫(常傭人夫)受入人夫の人選を嚴に し不良人種と認むる者は斷じて入場せしめざることゝせり一時冷却

平日に較べて 缺勤二千餘名

九日各工場職工場入員一萬二千九百二十一人中就業職工九千三百六十八名にして定員より減數三千五百五十三名は即ち缺勤者なるが平常に於ける缺勤者約一割ありとのことなれば之を約一千人と見て今回の罷工以來更に二割の減少、即ち二千人餘の缺勤者を見るに至れりと尚九日の夜勞働者は三千五百名にて以上の就業者は概して緊急文と稱する一部鮮人が製鐵所ストライキ職工の中に加はつて居つたと云ふことより其背景に不逞鮮人等が加擔して之を使嗾して居るが如き流說を傳ふる者があるので警察側にては夫等に對しても注意を拂つて居るが現在八幡市にて警察署の通譯を有し內地人と交渉を要する場合には必ず同通譯を介して事件を處理することにして目下其通譯は語る(八幡電話)

不逞鮮人使嗾の風說から人騷がせ

警察署で取調べの結果

八幡市の鮮人千五百餘名

私共の內に不逞の者があるこ云ふやうな流說を吹き立てたものがあるので少なからず迷惑して居るが警察では八幡市に來て居る千五百十五名一人の朝鮮人の總てに對して念の爲一通り取調べをすること云はれるので九日午前零時を期して其中の頭立つた者を一々取調べましたが怪しい者は一人もありませんでした、そればかりでなく鮮人は至つて靜に働いて居るのであります、特に注意を拂つて居られます云々

漸く常態に復した八幡製鐵所

(上)林立の煙突圖を吐く

(下)人夫の集まり

製鐵所職工に減給

第一製鋼部の內八個は檢査の結果異狀なく

罷工騷ぎの餘波が門司に飛火したるものか

同業組合員二百名は門司高等運輸部に出張し賃銀三割の値上を要求し本月十五日より實施すべしと敦圖き十日迄に回答を待ち居れるが氣荒き連中なれば回答の如何により騷擾も爲すまじき氣勢なるより沿守中の門司警察署員は警戒し居れり(門司電話)

進退伺 呈出は嘘

中川次長と竹下課長

中川次長竹下工場課長其他の高等官は今回勞働者の罷工事件に關し責を負ひ進退伺ひを提出したりと傳ふるものあるも事實全く無根にして竹下課長は進退伺を事件の終末を見ざる內に提出する位なら神經衰弱症に陷る迄警後策に就き奔走は致しません勿論私一個人としては相當考へて居ますが未だ眞表は出來ません恐らくは次長も同じ考へだらうこ思ひます從退伺を提出した事は絕對にありませんこ答へたり(八幡電話)

名紙 名紙 名紙 名紙

家ヘソット忍んでお出なさいまし然う云ふことは人目のない

の瓜吐糖の印輸出は前年に比して減の折柄却つて印度よ